

アクロポリス

近藤 節夫

作家であり、平和運動家としても人生を賭して大衆をリードした小田実が「ヨーロッパで最も感動したのは、アクロポリスの丘だった」とベストセラー書「何でも見てやろう」の中で述べている。「アクロポリス」には、そこに屹立するパルテノン神殿の圧倒的な建築美と伝統の文化的空気がたっぷり漂い、威風堂々とした壮大なボリューム感を醸し出している。そこに立つと単にビジュアルな絵画的構図ではなく、長い古代ギリシャの歴史がひとまとめになって全身に飛び込んでくる圧迫感と重量感を感じる。まさに「アクロポリス」こそは、歴史的な臨場感を持って凝視することのできる、世界で最も古く美しい造形美の極致であり、古代ギリシャ文明の面目躍如たる所以なのである。

建築学的、また観光的視点からも、ポタラ宮殿(チベット)、コロッセオ、ペルセポリス、万里の長城、ピラミッドと並んで地球上で最も価値の高い建造物と思込ませるほど胸の内を虜(とりこ)にしてしまう。

その華麗な姿はアテネ市内ならどこからも仰ぎ見ることができ、遥か海上からも望見することができる。夕陽に映えるパルテノン神殿は、まるで錦絵のように幻想的で、古来より漁を終えた漁師が帰路にその日の漁獲と無事を感謝し、明日への平安を祈り遥拝した女神であった。朝な夕なに美しいシルエットを見せるパルテノン神殿は、擬人化され処女神アテナとなって、アテネ市民の崇拝の対象となって今日まで受け継がれているのである。

アクロポリスには、端倪すべからざる紀元前 15 世紀に始まる古典的遺産としての価値と、世界史的に傑出した砦としての文化的価値がある。異国の侵略を受けていくたびか戦場となって破壊され時代に翻弄されながらも、その存在感は終始一貫微動だにしない。周囲から仰ぎ見る時良きにつけ悪しきにつけ、筆舌に尽くしがたい偉大なスケールを感じるのである。

市内のどこからも処女神アテナにみまがう美は容易に眺めることができるが、時と場所の選択によってその姿は微妙に形を変える。目ざといレストランでは、夕陽時のアテナの最も美しい瞬間を、個室ごとに美しい時間帯の中で味わえると宣伝しては商売に活かしているほどである。

滞在は、王宮前の五つ星ホテル「グランド・ブリターニュ」に止めを刺す。それもアクロポリスを右斜めに見る角部屋の、さらに贅沢を言えば最上階がよい。ここでベッドに寝ころびながら、窓から時々刻々と移り変わるパルテノン神殿を拝むことができる。これこそ現世の極楽浄土と呼ぶべきものではないだろうか。